

神谷 廣幸さん

代表取締役会長
株式会社オーミック

株式会社オーミック

- 代表者/
代表取締役会長 神谷廣幸
取締役社長 佐藤徹
- 従業員数/ 85名
- 住所/本社工場
滋賀県東海市辻600-1
- 創業/ 1972年
- 業務内容/ 高度管理医療機器製造販売、
通信関連部品製造、半導体関連部品製造、
産業用部品製造、工場設備・機械・機器・
工具等販売
- TEL/ 077-554-1871
- URL/ <http://www.omic-corp.co.jp/>



難切削材の加工技術で 医療機器の完成品メーカーへ



骨折箇所を接合するために
骨髄内に挿入する棒状の
固定材プレートと特殊なピン類

長寿社会のなかで、要介護となるきっかけの一つに骨折が挙げられる。とくに骨粗しょう症の人は大腿骨の摩擦や骨折を起こすことが多く、寝たきりの原因にもなるため、手術による早期治療を行う人が増えているという。そのなかでオーミックは大腿骨の手術に使われるインプラント(体内に埋め込まれる器具)を中心に、手術用機器などの開発・製造によって業績を伸ばしてきた。長年培われた難切削材に対する優れた加工技術は宇宙ロケットにも用いられており、そのノウハウには医療業界からも大きな期待が寄せられている。



医療機器は手術室と同等クラスのクリーンルームでつくられている



ワイヤ放電加工の準備風景
強みの難切削材の加工技術は現在も進化を続ける

電子部品から 宇宙、医療の世界へ

創業時の事業内容は？

昭和38年に東で機械工具専門の商社「鳳産業」を設立したのが創業の第一歩でした。その製作部門として昭和47年に立ち上げたのがオーミックの前身となる「三光製作所」です。はじめは機械工具の補修部品などをつくるサービス部門のような位置づけでしたが、その後大手メーカーの外注先としていろいろな部品の注文をいただくようになりました。とくに、やわらかすぎで切削が難しい純銅やコバルト(鉄にニッケルとコバルトを混ぜた合金)といった難切削材の加工を得意としていたことで、電子部品の分野で成長することができました。

医療機器に携わるきっかけは？

当時は大手精密機器メーカーの100%下請けだったのですが、同業他社と同じものを受注生産するだけでは価格競争になります。そこで親会社に「部品ではなく、その部品を使った製品を設計から任せてもらえば、もっと安いコストで仕様通りのものをつくれます」と掛け合いました。要望が通り、実績を積んでいくにつれて半導体や原子力、宇宙開発に関わる産業用機器など、より高度な加工技術が必要となる分野に携わるようになりました。とくにインプラントをふくむ医療機器の受託加工を手掛けたことが、いまの事業展開の礎になっています。

医療機器メーカーへの転換

現在は自社でオリジナル製品の開発製造を手掛けておられますね

きっかけはITバブルの崩壊で大打撃を受けたことでした。増産要請を受けて生産設備を増強した矢先、まだ設備が納入もされていない時にバブルが崩壊し、親会社からの受注が20%程度に激減。「自

力でごんばってほしい」と通告され、眠れぬ夜が続きました。依願退職をはじめ余剰設備を中古市場で現金化するなど、苦肉の策で辛くも倒産の危機を乗り切ることができました。この時、当社がもてる技術を生かして下請けから脱することを決断しました。

インプラントに注目された訳は？

当時、親会社からは、電子部品・光通信部品・産業用部品(宇宙・原子力等)・人工関節関連医療機器の四つの部門で取引がありました。今後の当社の方向性を定めるにあたって、当社の得意分野である難切削材の3D加工技術をもとに、欧米からの輸入品が80%強と市場を席巻する医療器具関連業界で、「ものづくりニッポン」の沽券にかけて国産化率向上にチャレンジすることを決めました。そして、そこにビジネスチャンスが必ずあると確信しました。ただ、医療機器は開発に時間がかかるうえ、さまざまな許認可が必要なため、自社ブランドで製品を上市するまでに10年を要しました。

また、当社はものづくりに専念することとし、販売は専門のパートナーに担当していただく体制を確立。良きパートナーに恵まれ、今日があります。



わずかな削り残しも許されないインプラント製品

使う人の目線で開発を

開発でご苦労された点は？

インプラントは患者の体内に入れるので、海外メーカーも日本人の体格に合わせて設計しています。ただし、それを体内に固定するデバイス(手術用装置)は標

準品のままなのです。骨に穴を開けたり、位置を合わせる重要な道具が、欧米人の体格を基準に造られたものでは使い辛いのは当然です。小柄な日本人に合ったコンパクトで使いやすい道具があれば、手術時間を短縮でき、患者や医師の負担が減るとともに病院のコストも下がります。当社はもともと工具を扱っていたので、使う人の立場で「使いやすい道具」を地道に追求してきた実績があります。その蓄積を活かし、医療現場の声を聴きながら、日本人向けに開発したオリジナル製品が、インプラントとデバイスをキットにした「OMフェモラルネイル」です。

それまでは輸入品をコピーした製品が多かったため、当社は手術時に手になじむ使いやすいデバイスの開発に固執してきました。その結果、他社にない独創性が評価され過去四度のグッドデザイン賞を受賞しています。



インプラントと手術に必要なデバイスをワンセットにした「OMフェモラルネイル」

今後の取り組みをお聞かせください

技術開発にさらに力を入れていきます。平成22年のサポイン事業※で研究開発を行った表面処理技術は、製品の一部で活用が進んでおり、現在、2回目のサポイン事業に取り組んでいます。インプラント市場は、新素材革命が起きつつあり、新しい技術で競争力のあるアイテムを広げていくことが今後の成長には不可欠です。

これから、ますます拡大が期待される医療機器分野で事業を発展させながら、地域未来牽引企業として、明日の滋賀をリードしていけるような力をつけていければ幸いです。

※サポイン事業

戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)は、デザイン開発、精密加工等の特定ものづくり基盤技術12分野の向上につながる研究開発、試作等の取り組みを、国が支援する制度です。産業支援プラザでは、本事業に挑戦する企業等のプロジェクト構築から公募申請、および事業管理までの支援を一貫して行っています。

問い合わせ先

(公財)滋賀県産業支援プラザ

連携推進部 ものづくり支援課 担当/熱田、草間

☎ 077-511-1414

☎ 077-511-1418

✉ shin@shigaplaza.or.jp